

# 環境の哲学サロン

## 『高レベル放射性廃棄物の地層処分を考える』

### 1 趣旨

私たちの暮らしの上で、電気は必要不可欠なエネルギーであり、生活水準の維持・向上、経済・産業活動に欠かせないものです。

我が国では、エネルギー政策の基本方針として、「3E+S」を掲げています。

これは、安全性 (Safety) を大前提とし、自給率 (Energy Security)、経済効率性 (Economic Efficiency) の向上、環境適合 (Environment) の同時達成を目指すものです。

具体的には、安定供給の確保、電力コストの引下げ、CO<sub>2</sub> 排出の抑制となり、資源の乏しい我が国において、この3点を実現するためには、原子力発電は欠かすことのできない電源です。

原子力発電に伴い発生する使用済み核燃料については、ウランやプルトニウムを取り出し、再利用を進めているものの、同時に発生する高レベル放射性廃棄物の最終処分場は確保されておらず、「トイレなきマンション」と揶揄されています。

核のごみ問題については、2000年に最終処分に関する法律が制定し、「地層処分」の方針が定められています。しかしながら、放射性物質に対する国民の不安は根強く、これまで核ごみの最終処分場の設置については進展していません。

この様な状況の中、経済産業省は、高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する調査を行い、安全性や輸送面など科学的・客観的な基準を設定し、平成29年7月に「科学的特性マップ」を示し、最終処分の必要性について幅広く国民に投げ掛けています。

次世代に負担を先送りしないためにも、私たちの日々の暮らしによって生ずる高レベル放射性廃棄物について、正しく学び、理解し、今後の国民的議論を促すための一助として、今回、『環境の哲学サロン』を開催します。

2 日時 平成29年12月16日(土) 13時 ~ 16時 (開場12時30分)

3 会場 都城ロイヤルホテル 都城市北原町1106-48 Tel0986-25-0111

### 4 内容

(1) 指南「原子力と社会的合意形成のプロジェクトマネジメント」(40分)

指南役 一般社団法人コンセンサス・コーディネーターズ(CCS)代表理事 桑子敏雄 氏  
(衆議院原子力問題特別調査特別委員会アドバイザー・ボード会員)

(2) 課題提起「高レベル放射性廃棄物の地層処分の必要性和その安全確保」(30分)

提起者 原子力発電環境整備機構 (NUMO) 技術部 部長 出口 朗 氏  
(技術士:原子力・放射線部門(核燃料サイクル技術))

(3) 談義: 指南役、課題提起者、施設見学者、参加者による討論会 (80分)

橋本成仁岡山大学准教授、高田知紀神戸工業専門学校准教授、上田泰子 CCS フェロー、豊田光世新潟大学准教授の CCS チームが進行する全員参加型の談義と桑子氏による指南

5 主催 NPO 法人みやざき技術士の会 支援 一般社団法人コンセンサス・コーディネーターズ

### 6 申込先

下記に、氏名、所属、連絡先を添えて、e-mailにてお申込ください!

NPO 法人 みやざき技術士の会 Tel 090-5727-8705 e-mail:yoshidiem@yahoo.co.jp 担当 下津義博

建設コンサルタツ協会の CPD 認定(3 単位:予定)講座です。入場は、無料です!

主催: NPO 法人みやざき技術士の会

880-0014 宮崎市鶴島 2-9-6 みやざきNPOハウス 303

●一般社団法人 コンセンサス・コーディネーターズ

代表理事 桑子 敏雄(くわこ としお)先生

1951年7月25日 群馬県生まれ

東京大学文学部哲学科卒業、同大学院人文科学研究科哲学専修課程博士課程修了、東京大学文学部助手、南山大学文学部講師、南山大学文学部助教授、ケンブリッジ大学古典、学部 Visiting Scholar, ロビンソン・カレッジ Visitor, Bye-fellow、東京工業大学工学部助教授、東京工業大学大学院社会理工学研究科教授、フランス国立社会科学高等研究院客員教授、大連大学客員教授などを歴任。東京工業大学名誉教授。2018年度より東京女子大学現代教養学部コミュニティ構想専攻特任教授に着任予定。博士(文学)(東京大学)



これまでの活動のなかで、「地を這う哲学者」「さすらいの哲学者」「まちづくり賑わい復活の仕掛人」「合意形成のプロフェッショナル」などと呼ばれている。

著作:『エネルギー アリストテレス哲学の創造』(東京大学出版会、1993年)、『気相の哲学』(新曜社、1996年)、『空間と身体』(東信堂、1998年)、『環境の哲学』(講談社学術文庫、1999年)、『西行の風景』(NHK ブックス、1999年)、『感性の哲学』(NHK ブックス、2001年)、『理想と決断』(NHKライブラリー2003年)、『わたしがわたしであるための哲学』(PHP 出版、2003年)、『風景のなかの環境哲学』(東京大学出版会 2005年)、『空間の履歴』(東信堂)、『生命と風景の哲学』(岩波書店、2013年)、『社会的合意形成のプロジェクトマネジメント』(コロナ社、2016年)、『わがまち再生プロジェクト』(KADOKAWA、2016年)など。

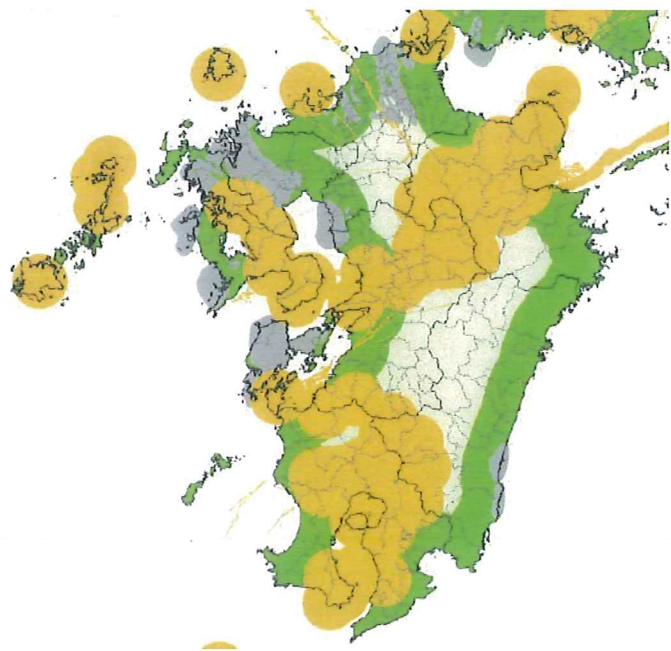
●ファシリテーター(コンセンサス・コーディネーターズ) 敬称略

橋本成仁	岡山大学准教授	土木工学・交通計画
高田知紀	神戸工業専門学校准教授	土木工学・合意形成
上田泰子	CCS フェロー	まちづくり
豊田光世	新潟大学准教授	環境哲学

★科学的特性マップとは?

経済産業省は、原子力発電から生じる核のごみについて保管能力の限界、極めて強い放射線を長期間放出するリスクもあることから 2000 年に最終処分に関する法律を制定し、地下 300mより深い岩盤に埋め、数万年から約 10 万年にわたり生活環境から隔離する『地層処分』の方針を定めている。

本方針に基づき同省は、地層処分に関する調査を行い、安全性や輸送面など科学的・客観的な基準を設定し、本年 7 月に科学的特性マップを公表した。県内沿岸部は、輸送面でも好ましい地域と評価される。



科学的特性マップ(九州地区抜粋)  
経済産業省資源エネルギー庁ホームページより